

エキシビション

広島県立加計高等学校芸北分校の生徒による

げい ほく かぐ ら 芸北神楽



あらすじ（演目紹介）

【八岐大蛇（やまたのおろち）】

高天原を追われた須佐之男命が、出雲の国で嘆き悲しむ老夫婦に出会います。その訳を尋ねると頭が八つ尾が八つの大蛇に毎年姫を呑み捕られ、とうとう最後の姫である櫛稲田姫までも呑み捕られる時が来たと言います。これを聞いた須佐之男命は、姫を嫁にもらう代わりに大蛇を退治すると約束します。そして一計を案じ、老夫婦に毒酒の入った酒樽を用意させて、酔って眠り込んでしまった八岐大蛇と戦い、無事にこれを退治して櫛稲田姫を救います。

広島県立加計高等学校芸北分校

【学校紹介】

広島県立加計高等学校芸北分校がある北広島町芸北地域は、中国地方でもスキー場が多く、また芸北神楽（げいほくかぐら）が盛んで数多くの神楽団（かぐらだん）が存在する「神楽（かぐら）の里」です。

芸北分校はこの地域の特色を生かしてスキーの全国大会への出場や、郷土の伝統芸能「神楽」の“心と技”の継承に努めています。

神楽部は昭和45年から活動を開始し、神楽を通しての多彩な交流活動により「郷土への自信と誇り」を持って、伝統芸能「神楽」の紹介に貢献しています。2017年全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門優秀賞受賞。同年東京公演にて文化庁長官賞受賞。